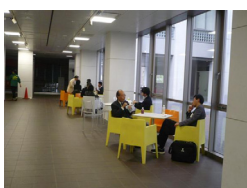
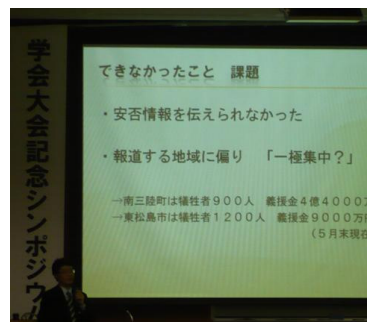
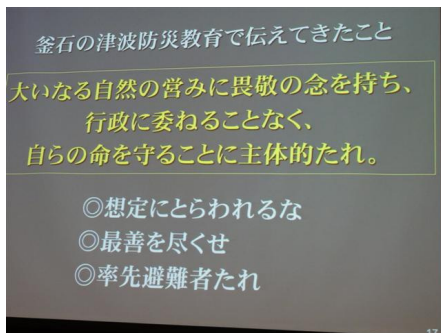




写真で見る第 13 回学会大会

日本災害情報学会は、第 13 回学会大会（研究発表会、総会など・実行委員長：福和伸夫名古屋大学大学院教授）を 10 月 29 日、30 日の日程で、名古屋大学（IB 電子情報館）で開催した。大会では過去最多 77 件の研究発表が行われ、261 名が参加して活発な議論が展開された。また、大会初日には、大会記念シンポジウムとして「東日本大震災を地元メディアはどう伝えたか ～来るべき南海トラフ巨大地震に備えて～」を開催し、また、片田敏孝群馬大学教授に対する廣井賞の授与と氏による講演（「想定外を生き抜く力を育む防災教育」）が行われ、一般にも公開した。

10月29日（土）	受付開始	8時45分～	
	研究発表	9時30分～11 時45分	A 会場 (IB014) B 会場 (IB015)
	昼休み	11時40分～13時00分	
	記念シンポジウム	13時00分～15時30分	IB大講義室（一般公開）
	廣井賞授賞式・講演	15時45分～16時45分	IB大講義室（一般公開）
	総会	17時00分～18時00分	IB大講義室
	懇親会	18時30分～20時00分	レストラン花の木（キャンパス内）
10月30日（日）	受付開始	8時30分～	
	研究発表	9時00分～12時10分	A 会場 (IB014) B 会場 (IB015)
	昼休み	12時10分～13時10分	
	研究発表	13時10分～17時00分	A 会場 (IB014) B 会場 (IB015)



全国各地から261名が名古屋に！

写真で見る学会大会2011



研究発表 10月29日 [A, B2会場で開催]



大会記念シンポジウム[IB 大講義室]

「東日本大震災を地元メディアはどう伝えたか ～来るべき南海トラフ巨大地震に備えて～」

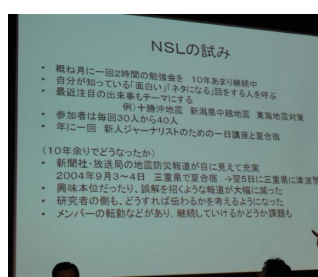
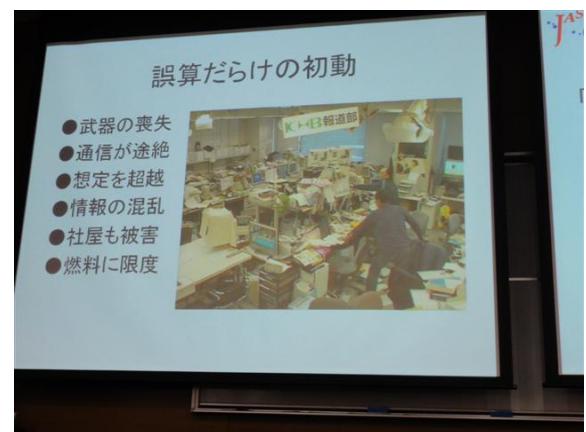
基調報告① 河北新報 震災取材班 古関良行

基調報告② 東日本放送 編集長 山口則幸

総合討論 古関良行(前掲)、山口則幸(前掲)、

武居信介(中京テレビ)、五十嵐信裕(名古屋テレビ)、中村禎一郎(中日新聞)

討論コーディネータ: 隈本邦彦(名古屋大学減災連携研究センター)

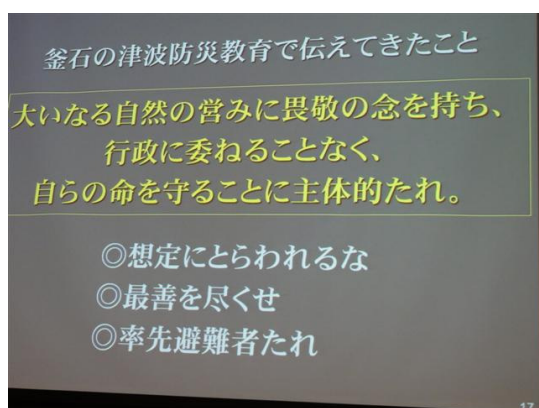
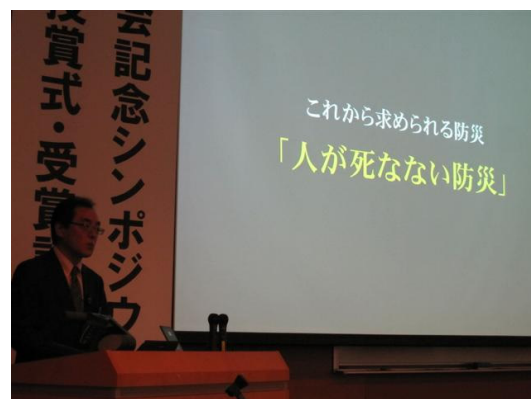


廣井賞授賞式・記念講演[IB 大講義室]

日本災害情報学会は 2006 年、初代会長の故廣井脩氏（元東京大学大学院教授）の志を後世に伝えるため廣井賞を創設し、5 回目の授与式を 10 月 29 日、学会大会席上で行った。

今年は、学術的功績分野として片田敏孝群馬大学教授に授与した。

分 野	受 賞 者	表 彰 理 由
学術的功績(個人)	片田敏孝氏 群馬大学大学院工学研究科教授、群馬大学広域首都圏防災研究センター・センター長、岩手県釜石市防災・危機管理アドバイザー	片田氏は、自然災害に関する長年の防災・減災研究をもとに、各地の現場で避難をすすめる独創的かつ実践的な防災教育に携わっている。東日本大震災の際、釜石市では子どもたちが率先して大津波から避難し、無事逃れることができたことは氏の防災教育の成果であり、災害情報分野における顕著な功績であると認められる。



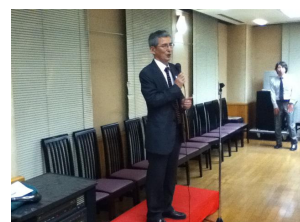
総会 (IB 大講義室)



名誉会員顕彰 (IB 大講義室)



懇親会 (レストラン花の木)



研究発表 10月30日 [A, B2会場で開催]

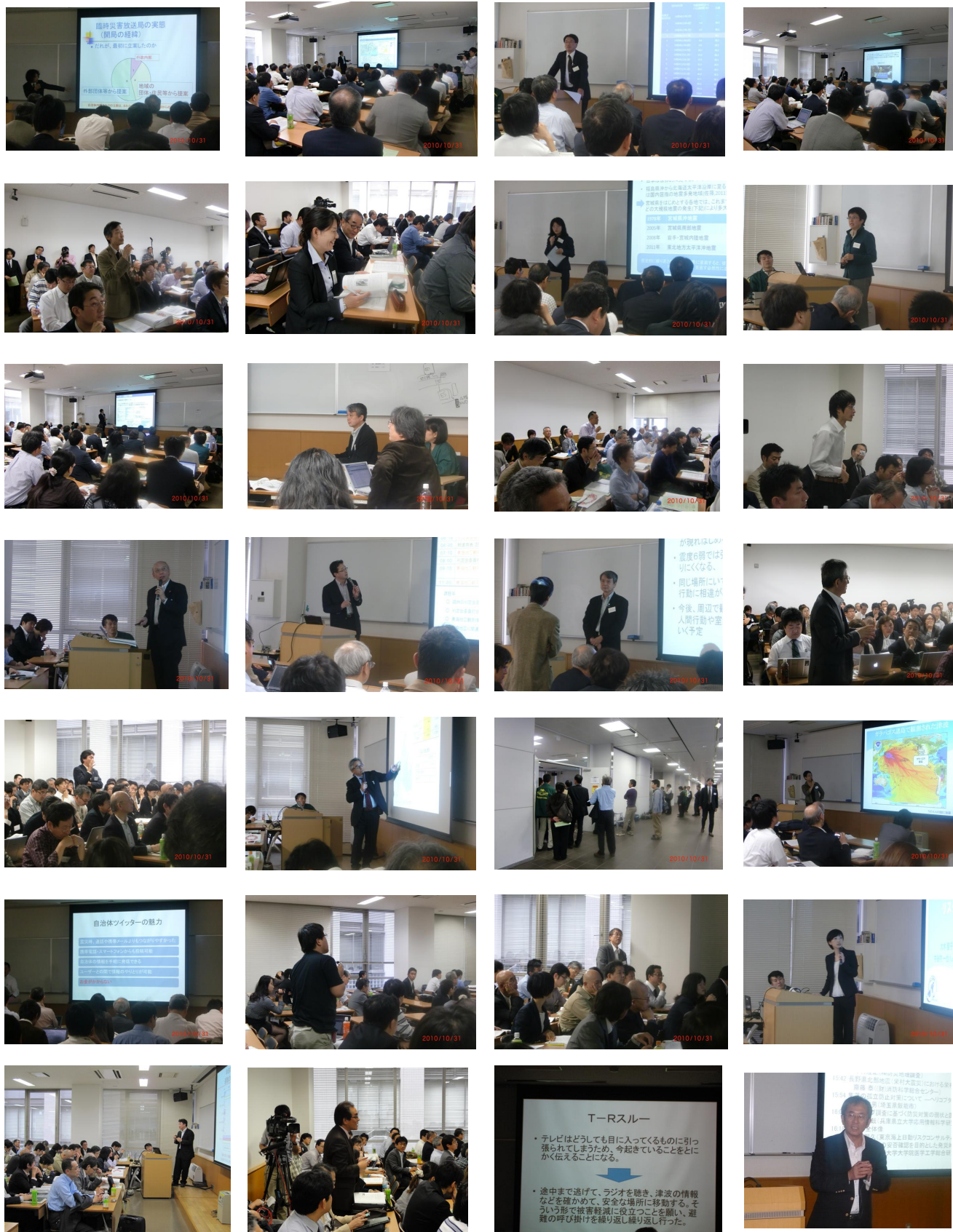


PHOTO by HADA , KAGIYA, MISHIMA, NAKAJIMA, NAKAMURA (I), NAKAMURA (N) and KURODA